

本時のねらい

・主語と述語の適切な係り受けに注意し、文の構造を捉えることで、正しい文を作ることができる。

本時における1人1台端末の活用方法とそのねらい

・Jamboard で主語、述語が書かれたことばカードを活用しパズル形式の課題に取り組むことで、視覚的に文の構造を捉えることができる。
・ムーブノートで、複数の友だちが作成したクイズを解くことで、興味をもって取り組み、文の構造の理解が深まる。

活用したICT機器・デジタル教材・コンテンツ等

- ・ Chromebook
- ・ Google クラスルーム
- ・ Jamboard
- ・ ミライシード
- ・ ムーブノート

本時の展開

学習の流れ	主な学習活動と内容	ICT活用のポイント・工夫
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> ○前時の学習をふりかえる。 ・主語と述語の4つの文型の確認。 ア：□は、が、どうする。 イ：□は、が、どんなだ。 ウ：□は、が、なん(だれ)だ。 エ：□は、が、ある(いる)。 ○主語と述語を見つけるプリントに取り組む。 ・どの文型にあてはまるか考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主語、述語について説明した動画教材をクリーンに映し出し、主語と述語の基本文型を確認する。
展開 (30分)	<ul style="list-style-type: none"> ○「主語と述語クイズ」を行う。 ・Jamboardで児童一人ひとりがカードを並べ替える ① な い て い る 赤 ち や ん が ② お い し い カ レ ー ラ イ ス は ③ あ る 三 だ ん の と び ぼ こ が ④ け い さ ん が ぼ く は し ょ う が く せ い た と く い な ・答え合わせをする。 ○ムーブノートに主語と述語の構造を満たした文を作成する。 ○全員の文を電子黒板に映し、友だちが作成した文を主語、述語に分けるクイズを解く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・視覚的に文の構造を捉えるため、Jamboardでことばカードを作り、児童へ配付しておく。 ・電子黒板に全員分を映し、全員で答えを確認しながら主語と述語の構造を捉える。 ・共有した文の主語、述語を児童全員で見つけることで、文の構造を視覚的に理解する。
まとめ (5分)	<ul style="list-style-type: none"> ○ふりかえりをする。 ・わかったこと、できたこと、次にやってみいたいことなどをプリントに書く。 	

1人1台端末を活用した活動の様子



写真1：Chromebook を用いて、ことばカードを並び替えて文章を作っている場面



写真2：ミライシードのムーブノート機能を活用し、文を作成している場面



写真3：クラス全体の文を画面共有し、主語と述語に分けている場面

児童の反応や変容

動画を見ることで、4つの文型を楽しく確認できた。また、友だちが作成した文について主語と述語に分けることで、主語と述語の係り受けが正しい文を作ることのできる児童が増えた。

授業者の声～参考にしてほしいポイント～

Jamboard やムーブノートなど、児童が簡単に操作できるソフトを使うことで、主語と述語の係り受けを視覚的に理解する活動ができ、主語、述語の構造に着目できるようになる。